

## 大智禪師偈頌

### 鳳山山居（その八）

終日搬柴運水中  
ひねもす はんさい うんすい うち

分明頭露主人公  
ぶんみょう けんろ しゅじんこう

三千日月觀成敗  
せん じつげつ せいばい み

坐斷須彌第一峰  
ざだん しゆみ だいいっぽう

鳳山聖護寺には現在、電気もガスも電話もない。

科学技術の素晴らしい進歩のお陰の中で豊かな生活に慣れ切っている人達にはとてもやり切れないような不便な明け暮れである。しかし、柴を搬び水を運ぶというような古風を味わうには相応しい山の中の生活ではある。

道元禪師は正法眼蔵神通という一卷を開示せられている。

神通（じんずう）とは超人的な通力ということ、足は地をふまず、人の心命を知り、眼を千里の外に回らし、名を呼べば直に至り、石壁も礙うるなしというような自在な働きのことで

ある。釈尊をはじめ悟を開かれた羅漢様方には五神通六神通という超能力が具わっていたのである。

差し当たり現代人が居ながらにして宇宙を駆けめぐったり、細胞や原子という微塵の世界を左右する様な現状を前世紀の人間が見聞したら、現代人は幾つかの神通力を具えた摩訶不思議な魔術師か仙人ということになるであろう。

ところが、道元禪師は同じ神通でも大小があるぞ。

大神通は小神通を接す、小神通は大神通をしらず。小神通というは、いわゆる毛呑巨海・芥納須弥なり。また身上出水・身下出火等なり。また五通六通みな小神通なり。これらのやから、仏神通は夢也未見聞在なり。

といわれるのである。詰り、神通は、超能力、超人的で奇想天外な不思議な働きをすることではあるが大神通と小神通とでは程度が違う。次元が異なるのだといわれるのである。

毛穴ほどの中に大海を呑み込まずとか、芥子粒ほどの中に須弥山を納めるとか、頭から水を出したり、足下から火を吹き出したり、奇蹟的な行動はとかく世間に感心がられるものではあるがこれらは小神通である。

二乗外道経師論師等は、小神通をならう、大神通をならわず。諸仏は大神通を住持す、大神通を相伝す。

仏祖は大神通の生活を相続せられているのである。つまり人間としての当たり前前の素晴らしい生き方を教え導いて来られたのです。

運水の大神通なることを学すべし。運水搬柴はいまだすたれざるところ、人さしおかず、ゆるゑにむかしよりいまにおよぶ、これよりかれにつたはれり。

大智禪師はこの仏祖の大神通を正伝せられ鳳山に於て日課とせられ、終日、柴をはこび、水をはこんでおられた訳である。

因みに五神通、六神通とは、

- 一、神足通、どこにでも自由にとんで行ける通力
- 二、天眼通、なんでも見える通力
- 三、他心通、だれの心の中も手にとるようになる通力
- 四、天耳通、すべての音声を聴取することが出来る通力
- 五、宿命通、前の世や後の世のことがわかる通力

六、漏尽通、煩惱の汚れの漏れ尽きたところに具わる自在の通力  
ということである。

運水搬柴、洗鉢添瓶は毎日の生活である。どこでなにをしても坐禅の生活であれば大神通である。それは坐禅が相手のない活動であるからである。相手がないから自由自在であり、比べるもののない天下一品の素晴らしい働きである。坐禅は自己の正体である。いま取り組む仕事に自己の正体の光明のかがやくのが**主人公の顕露**である。

**三千の日月**とは三千大千世界、宇宙の無限の世界のことである。その無始無終の無限の世界も、実は無常であり常に刹那生滅している。この真実に通達して真実の生き方をすることこそが大神通である。

須弥山という宇宙を貫く無限の山はその儘、坐禅の姿ではないか。



聖護寺跡の碑